

## 令和 5 年度第 7 回立川市生涯学習推進審議会 会議録

開催日時 令和 6 年 3 月 15 日（金曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分

開催場所 立川市女性総合センターアイム第 2 学習室

出席者 [委 員] 倉持 伸江 会長 檜崎 茂彌 副会長 大槌 正則 委員  
柴 香里 委員 梅田 茂之 委員 竹内 英子 委員  
難波 敦子 委員 宮本 直樹 委員 岩元 喜代子 委員  
杉浦 早苗 委員

[事務局] 立川市生涯学習推進センター長 庄司 康洋

同 管理係長 加藤 暁子

同 管理係員 大須賀 雄大（記）

傍聴 0 名

次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
  - (1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について
4. 協議事項
  - (1) 令和 5 年度第 6 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
  - (2) 立川市第 7 次生涯学習推進計画策定に向けた検討について
5. その他
  - (1) 令和 5 年度第 4 回立川市議会定例会報告
  - (2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について

配付資料

1. 令和 5 年度第 3 回たちかわ市民交流大学企画運営委員会議事概要
2. 令和 5 年度第 6 回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
3. 令和 5 年（2023 年）第 4 回立川市議会定例会報告

会議内容

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項

(1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について

(会 長) A 委員より説明をお願いいたします。

(A 委員) いつも通り議事概要をお配りいただいておりますので、お時間があるときにお読みいただければと思います。内容についてはいつも通りで粛々と進め、意見交換をさせていただきました。貴重なお時間ですので説明は以上とさせていただきます。

(会 長) ありがとうございます。どこかポイントや主な議論点などはございましたか。

- (A委員) 特段ございませんが、いよいよ生涯学習推進計画が検討のフェーズに入りますということを皆様にご説明をして、企画運営委員会としても生涯審での検討とリンクさせていきたいということをお伝えしました。日程調整についても合わせていきたいということもお伝えしております。
- (B委員) 簡単に目を通しただけですけれども、参加者の職業欄のところに「無職」とするのに抵抗があるということで、あまり気が付かなかったのですが、嫌だと思ってる人があるのだなと思いました。
- (A委員) ほとんどの講座に市民交流大学が関係してきますが、アンケートをとるときに嫌だと思っても「無職」としている人もいれば、独自の書き方で記載している方もいらっちゃって、この問題提起を受けて全員で納得しました。
- (B委員) 意識のある人だから外での活動をいろいろやられていて、自身の肩書が無職という範疇におさまることに納得できないということなのかもしれませんね。
- (A委員) 誰もが納得して丸を付けられるようなものがあればいいなと思います。アンケートのこの項目で無職かどうかを聞いてどう活かそうとしているのかまで考える必要がありますね。
- (会 長) ありがとうございます。5 ページのところに「きらり・たちかわ冬号」について、申込を電子申請でできるようにという話題があるのですが、生涯審でも次期計画に向けて、広報的な意味でも事業的な意味でも情報収集の発信についてもオンラインを活用するという話題になっていますけれども、受講申込についてもそれぞれメリット・デメリットありまして、申込者数が増えたり、若い世代に評判がいいとかある一方、申込者数に対して参加者数が少ないとか参加への気軽さがある分ハードルが下がっているような、当日の行動に結びついているような印象があります。後程、このあたりも意見交換できたらと思います。

#### 4. 協議事項

- (1) 立川市第7次生涯学習推進計画策定に向けた検討について

(会 長) 事務局より説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 事前に確認をお願いしておりましたが、修正意見はございませんでした。

本日ご意見等がなければご承認いただいたということで、ホームページに公開したいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

(会 長) ありがとうございます。何かお気づきの点等ございますでしょうか。(なし)

- (2) 立川市第7次生涯学習推進計画策定に向けた検討について

(会 長) 事務局より説明をお願いいたします。

(事務局・センター長) 本来ですと体系案をお示しできる段階でございましたが、時を同じくして長期総合計画の策定に入っております。その中身について大きな変更を予定しておりまして、第6次生涯学習推進計画をお持ちの方は3ページをご覧いただいて、計画の考え方と構成というところで、第3節の範囲と位置づけというのがございまして、第4次長期総合計画では将来像や都市像というのがありますが、政策が5つありまして、「子ども・学び・文化」という中に「生涯学習社会

の実現」という項目が含まれております。この政策体系を変えるという案がございまして、政策を組織とリンクさせてというものなのですが、具体的に申し上げますと、教育を一つの政策として、それらにぶら下がる課の一つとして生涯学習社会の実現を施策とするようになるので、大きな変更はないかと思うのですが、部の数だけ政策ができるような仕掛けを検討しておりますので、体系が出来上がっていないというところがございます。政策を部単位に合わせて施策を課単位に合わせるという組織とリンクさせるという全国的にはあまりない仕掛けを考えております。そのため、生涯学習の部分についても23ページのイメージができていないというような状況でございます。従来通りの考え方でスタートしていいというゴーサインが出れば自由に話をできるのですが、それができませんので、大変恐縮ではございますが、個別の27ページ以降の具体的な取組事項、事務事業、施策の方向など、計画に応じてページを一つひとつ確認しながら話し合いができればと思っております。今までもフリートキキングは重ねてまいりましたが、今回は計画に沿った形でご意見をいただければと思います。

- (会長) ご説明にあった通り、実際に計画の中身をどのように見直していくかについては、タイミングが合わないということで、今ある第6次計画を見てどういったところが課題だとか、こういったところも検討していかなくてはいけないのではないとか、前回の市民アンケートの報告を前回は聞いただけだったので、市民ニーズを踏まえながら、今後どういうところを見直していけばいいのかを考えていきたいということでした。現行計画では重点項目として、「市民の学びづくりに生かす持続可能なしくみづくり」があります。学びとまちづくりというところをつなげて考えているというのが、大きな柱の一つ目です。「たちかわ市民交流大学を核とした市民の学びの推進」ということで市民交流大学という枠組みの中で行政と市民と協働して様々な生涯学習を推進していくという観点と、「地域拠点としての地域学習館での学びの推進」ということで、各学習館を各エリアの拠点として、場や事業として学びの拠点として、展開していくということはここ数年計画継続してきたことでもあります。施策目標は3つ立てていて、それに対して、皆様にも評価していただいている項目があってというような立て付けになっている計画ということでした。それでは計画に沿って進めていくので、気づいたタイミングで発言してください。まず、28ページの学習機会の充実の部分です。市民ニーズにこたえるという部分になれば、市民アンケートの結果を見なければいけませんし、すべての人が学べる機会という部分であれば障害を持つ方や多様なルーツを持つ方、年齢・性別にかかわらずという話になってくるかと思えます。このあたりで検討した方がいいところや見直した方がいいものなんかある方いらっしゃいますか。
- (C委員) 29ページの部分でもよろしいでしょうか。前々回の話し合いの時に障害者理解について挙げさせていただいたこともあって考えてみたのですが、最初の取組事項のところでは、名称が「障害者理解講座や、障害者のための事業」とあるのですが、「多様性に応じた事業」に変えた方がいいと思っています。内容についても「ノーマライゼーション」を「インクルージョン」という言葉に変えた方が先進的で今に沿っているかと思えます。きらり・たちかわにも青春学級が載っていま

すが、ボッチャの事業に関しては障害の有無にかかわらず、どなたでも参加できますよと門戸が開かれているような気がしています。社会的マイノリティを健常者と同じ存在として捉えて学びを保障するという立川は取り組んでいるわけですから、「ハンディキャップのある方々の」は除いて、「社会的自立や交流を支援するための事業を実施します」の方が言い当てているのではないかと思います。今後、計画を立てるにあたってはその方がいいと思います。障害というのは、今は個性として捉えておりますので、そういったところに関しては変えていった方が、今後動きやすいのではないかと思います。

(会長) ありがとうございます。ご指摘の通りで表現も含めて新しくしていこうという提案でした。ただし、考え方としては、特に学習機会に恵まれていなかった方々をピックアップすることで、意識的に事業を展開していかなきゃという意図も含まれているかと思います。

(事務局・センター長) 国の方で障害者のための生涯学習というものが位置付けられておりました、立川市でも青春学級を30年以上続けております。柴崎学習館がメインになりますが、月に2~3回、隔週でコースをしたり、簡単な体操をしたりしています。障害者の生涯学習というと障害者の方が参加できる事業として、青春学級がメインの事業になっておりました、それ以外の取組がもう少し必要かと思いますが、専門性が必要なのが課題です。

(副会長) 2月10日にZoomで講座をしたのですが、リモートで自宅で学べるというのはとても意味のあることで、第6次計画の中にはそういった発想がないように思います。

(会長) 対面の講座を前提に書かれているということですね。

(副会長) ただし、対面の講座は必要なので、対面とリモートを合わせて行うという発想で取り組んでいけば、障害のある方が来てもいいし、自宅でも受けられるとなると広がるかと思います。あまりにも参加者が少ない講座なんかでは友達に声を掛けたりしています。そうすると立川市内より広がっていくことになるので、良いなと思いました。

(会長) ありがとうございます。副会長からオンライン活用の学習機会提供の話が出たので、柴崎学習館と幸学習館と錦学習館でZoom講座をやっていると聞いているので、どうだったかとか課題なんかも含めてご意見いただけるといいかと思います。前回、D委員からお話伺ったところでしたかね。

(D委員) わざわざ学習館に来なくてもいいということはいいいことだと思いますので、もっと広げていただけたらと思います。機械に強くない方もいらっしゃるもので、その場でも聞けるようにどちらも実施してもらうのがいいような気がします。

(会長) ツールを使うための講座も必要ですね。手段としてオンラインを使う講座と手段そのものを学ぶ機会のも生涯学習の使命の一つと思うと、「高齢者だから使えない人は集まってください」ではなくて、「高齢者でも使えるように学習機会を提供する」というのも大事ですね。錦学習館ではスマホ講座をして、実際にQRコード決済で支払うところまで、コンビニやパン屋でチャージして使うということを行ったみたいです。使ったことがない不安感を共有しながら実践していったら、

不安感の解消とツールの使い方を学んで、その後利用するかはご自身で判断していくという流れで行われました。そういった講座も必要になってくるかと思いません。

(B 委員) 市民アンケートのクロス集計を見ても、インターネットを使用して生涯学習をしている状況があるのと、これから学ぶとしたら会長がおっしゃられたように情報端末を学んでみたいとなっていたと思います。アンケート結果のベースとしてインターネットは外せない重要なキーワードだなと感じました。

(C 委員) デジタルデバイドの話は 23 ページに入れたいといけないかと思えます。例えば、「学習情報の提供」に「さまざまな媒体の活用による広報」とありますが、広報しても伝わらないかもしれないので、「広報と活用方法の支援」として、文章としては長くなってしまっているので分けた方がいいかはわかりませんが、そこを解消しないと生涯学習が進まないと思えました。

(会 長) SNS とかを使った広報という側面や申し込むとかの参加のハードルを下げる、多様な人が参加しやすくなるしくみづくりと学習機会そのものとしてオンラインを学ぶということとオンライン自体を学ぶという意味と、デジタルの話がいろいろな側面が出ていますね。

(E 委員) 市役所全体として DX に取り組むとされていますが、すべてのことがペーパーレスに対応できるように、市民リーダーの登録もどこからでもアクセスできて、この冊子を見ないとわからないとかではなくて、いつでもオンラインで検索をすれば見られるようになるとかは、市役所全体として取り掛かろうとしているかと思えますので、見直しを教えていただければと思います。

(事務局・センター長) 酒井市長になられてから DX を柱の一つにしておりまして、管理職を中心に昨年くらいからパソコンに専用の機器をつけて在宅でも仕事ができるような環境になりました。それだけではなく、施設予約システムについても仮予約後に来館しなくてもいいように見直しをする検討に入ったり、令和 6 年度予算に DX 関連の事業をいくつか盛り込んでいることもございますので、先ほどの登録名簿もなにかしら仕掛けをしていけたらと考えているところでございます。

(E 委員) やりたいことを入力すれば、答えが出て来るようなものができるといいですね。

(A 委員) 先を急ぐような発言で大変恐縮ではございますが、会長がおっしゃったように、学びのテーマとしての DX と施設管理や申込に関する DX とでは大きく違うと思いますし、両方なくてはいけないと思えますので、3 つの施策目標のうちの一つとしてもいいくらいの話ではないかと思えます。

(会 長) 体系のまとめ方も難しいですが、どこかの項目に入れるというよりは、重点項目が 3 つではなく 4 つになるのかということも考えられますね。E 委員のご意見を伺って、学習相談も課題と言われ続けていますが、これの AI を積極的に導入しようということであれば、資源はあって「何かやりたい」とか「こういう人に関わりたい」とかなった時に、一定程度に AI がおすすめてくれるようなことも、学びを促すためには可能性があると思えます。もっと込み入った話であれば人がつなぐという方法もあり得ると思えます。どの項目にも入ってきますが、先ほどおっしゃっていたように学習館でとか出会ってとか、できるできないだけではない

- い価値というのも整理していかなくてはいけないことですね。この位置づけをどうしていくかは次回計画を決めるときに頑張らないといけない部分になりますね。
- (B 委員) アンケートを見て、きらり・たちかわを知らない人が 50%もいて、一生懸命取り組んでいてもこういう結果になることもあるのだなと思うと、あの冊子が何のためにあるのかがわからなくて興味を引かないのかもしれないし、ペーパーとペーパーレスの二本立てで絶えず情報が入ってくるような形をベースとして取り組まないといけない時代なのだと思います。若い人たちの話を聞くと YouTube のような動画を入口としていることが多くあって需要度が高いと思います。アンケートをまとめてくださったのを見ると方策が見えてくるようなものがあるので、項目が具体的に決められないのであれば、洗い出しながらベースに何を置くべきかという共通理解を持って取り組めればと思います。
- (C 委員) 私も同じように思います。アンケートから年齢的な差異がはっきり出ているので、私もその部分に苦手意識があるので、そこを補っていききたいのと、何事においてもハイブリットのように両方必要だと思います。「知縁・学縁」という立川独自の言葉がすごいなと思っていて、古い感じはあるのですが、紙面としてのきらり・たちかわも楽しみに読ませていただいています。どれかできることはないか、やってみたいことはないかとワクワクしながら見ておりますので、両方活用できるように、すべての人という意味では紙面だと読めない方がいらっしゃいますし、音声等も必要でしょうから考えていただけたら行き渡るのではないかと思います。
- (会 長) ありがとうございます。このあたりは問題意識があって、ずっと議論してきているところになるので、次回計画では検討していかないといけない部分ですね。
- (E 委員) B 委員がおっしゃっていたように市民交流大学を知っていますかの間に知らない方が 73%いらっしゃって市民交流大学としてはどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。
- (A 委員) 個人的な意見になりますが、アンケートは無作為抽出で市民全体を対象にしていますので、地域に関心がない方や、公共施設に足を運んだことがない方からすると、何を聞かれているのかもよくわからないという状況かと思っています。ただし、それも含めて市民の声なので、そういったライフスタイルの中ではしょうがないですねと思いますが、残念ではあります。
- (E 委員) 市がこれだけの事業に取り組んでいるので、何かいい方策はないかと感じます。長い歴史の中でいろいろ考えてこられたとは思いますが、C 委員のようにきらり・たちかわを毎号楽しみにしている方ばかりではないというのが、今後どうにかして、PR なのか広報なのかわかりませんが取り組んでいけたらいいのではないかと思います。
- (会 長) 立川市の在学・在住・在勤の方に対する比率で考えると、まだ活用してもらったり知ってもらったりする余地はあるということになりますね。調査結果を見ても、なぜ参加しないのかというときっかけがないとか忙しいとかいうところもありますが、ちょっと参加してみたいとかついでに参加したくらのところから裾野を広げていきたいですね。
- (B 委員) これは寝言とさせていただいていいくらいなのですが、市民交流大学の情報誌

が何なのかわからないという人がいるのだと思います。例えば「あなたの生涯学習はここからスタート」とか何のための冊子なのかがわかるようなキャッチコピーのようなものがあるといいのかなと思います。数字だけ見るとなぜなのかと思ってしまうので、お堅い冊子と思われたいフレーズみたいなものがあるといいのかなと、安易ではありますが思いました。

(A委員) きらり・たちかわもだいぶやわらかい雰囲気です手に取りやすく、目立つようにできているのですが、まだ足りないのかもしれない。生涯学習に関わらず、食わず嫌いの方がいらっしゃって、よくある話は、生涯学習に参加して見たら「こんなことしているなんて知らなかった。もっと早く知っていたら早く参加したのに。」という風におっしゃられることがあります。やりたかったのであれば、これだけ広報していてもなぜ気づかないのだろうと思うのですが、その方にとって、やりたいと思ったのが今だったということなのだと思います。今までは関心がなくてスルーしてきてしまったということに対して、どう転換してもらうかというところなのだと思います。

(C委員) 私は体育館や図書館に行っていたいていました。公的な施設に行けば置いてあることを私は知っていますが、例えば、紙面を開いた形で商業施設で掲示するとかキャッチーな言葉を入れたポスター貼るとかすれば、何かやりたいと思っている人であれば見ると思います。先ほどおっしゃった通り、興味関心がなければどれだけ素敵なものであろうと引っかかるものがないのだと思いますが、知らなかったという方が気づける場所というのは公的な施設だけではない気がします。立川は商業的には恵まれた都市だと思いますので、ご協力をいただいて無料を打ち出すとかそういったところにも力を入れた方がいいのではないかと思います。

(A委員) ありがとうございます。ご指摘の通りだと思います。そういったことを踏まえて取り組んできたのが民間企業に置いていただくということでした。今では、オーケストアや郵便局までありとあらゆる場所に置いてあるのですが、気がつかない方もいらっしゃるという状況です。掲示については商業施設の方ではハードルが高いかもしれませんが、どこか試してもいいと言ってくれる商業施設があれば試してみたいことではありますね。

(C委員) こんなにありますよと人を投入してみるというのもありますね。

(A委員) 市民推進委員会の皆さんが個人的に行っている民間施設にお願いに行ってください置いてあるケースもあります。

(会 長) 広報もそうですが、学校や民間施設と事業を乗り合うとかアウトリーチして外部で行うとか考えてもいいのかもしれないですね。場所に困らないというのはある意味閉鎖的に行ってしまうというのもあると思うので、すでに実施しているとは思いますが、広報の一つになるかと思えます。ありがとうございます。広報的な側面の話もありまして、連携とか協働の話もありまして、計画に沿っていくと「学習情報の提供」のところについて話題になりまして、「さまざまな媒体の活用による広報」、「学びの裾野を広げる情報発信」、「学習相談体制の充実」についてはどうでしょうか。学習相談体制は限られた職員配置の中では、急速に相談件数を伸ばすのは難しいかと思えます。

(B 委員) この項目は「C」評価になっていますね。何が課題なのか議論して方策を盛り込むとかして「B」評価に上げられるようにしていかないと、改善につながらないのではないかと思います。

(E 委員) 学習相談というのは、どのような市民を想定して使われているのかわからないままに過ぎてしまっていて、具体的にどのようにすれば問題が解決するのか、いい方策として活用してもらえそうな計画になるのかがよくわからないと感じています。今では Google で調べれば何でも出てくる時代に市役所として何をしていくべきなのか、市がやらなくてはいけないことなのかというのを疑問に思っています。

(事務局・センター長) 40 ページにある写真を見ていただくと、常時ではありませんが職員を配置して平日はほぼ対応できるようにしております。本来であれば、「このような活動をしてみたい」とか「こういったグループに参加してみたい」とか、例えば手芸のグループを紹介してほしいとか、そういったことが想定されるのですが、実際に行われているのは道案内になってしまっているような状況です。本来であればそういったことではなくて、PR して相談につなげることで職員がコーディネーター的役割を担っていくべきなのでしょうが、それができていないということもあり、C 評価に繋がっていることもあるかと思います。まずはきりり・たちかわにあるような講座に参加してみませんかといったところからしていかなくてはいけないと思うのですが、そういった相談もないというのが事実としてございます。

(E 委員) ないと思います。私が何かやりたいとなった時に、ここに行って相談しようという思いはないですね。

(会 長) それが機能している施設や自治体もあります。何かを始めたいとか活動に行き詰ったとか、そういう時に相談できる資源や場所があれば、学習相談が機能しているところもあります。立川市として力を入れて改善していくのか、ある程度自律的な市民が多いので、情報発信しておけば大丈夫としていくのかというところが少し中途半端になっているところもありつつ、あまり活用されていないという実態もあるということです。

(B 委員) 相談の流れとして学習館で受けた学習の相談について、相談コーナーが中央になって集まってきて、そこから各学習館に回答していくという情報の流れになっていくとして、学習館の職員がコーディネート力を高めていくというのが一つ。6 館の持っている人材バンクのネットワークを可視化して、西砂学習館でサークルを立ち上げる時にこのような人材が必要だと話が入ったりするとネットワークが活かされている実感があって、この項目も評価が高くなるのかなと思います。西砂の課題は柴崎でも回答していただけるようなネットワークになって、6 館で情報の共有ができればいい連携ができるような気がします。

(事務局・センター長) 相談コーナーがこのビルの 1 階にあって、相談機能があるのですが、学習館にも相談機能がございまして、学習館の職員が相談を受けてそれに対応していくのは想定しておりますので、相談コーナーにつくのは生涯学習係や市民交流係の職員ですが、生涯学習係は学習館を束ねる役割もございます。



(B委員) この文面からもコーディネートする必要があるのは学習館の職員だという認識は持っていますので、相談があった場合に連携が図ればということです。6館のネットワークで支え合っていけるといいのかなと思います。

(事務局・センター長) 職員だけでなく、交流会等で運営協議会の皆様もどのような館の運営をしているか横の連携をして取り組んでいきたいと思っています。

(副会長) E委員のおっしゃられたようなことは進んでいると思います。学習館の正規職員はほぼ管理業務をしているような状態です。例えば、何か講座のようなものをするると他の学習館の会計年度任用職員が手伝いに来ます。その連携はうまくいっているように思えます。会計年度任用職員の方は地域にどのような人がいるのか詳しくて、コーディネーターを担っているというのが現実だと思います。そういったメンバーで講座を進めて、交流し合っているような実態があるので、それを束ねられるセンターがあればという感じです。ぜひお願いしたいのは、会計年度任用職員はその地域の人たちをつないでいる人たちなので、正規職員のように安易に異動させないでいただきたいと思っています。この前、西東京市では専門職員と呼んでいるという話があったと思いますが、そういったことも検討していただきたいと思っています。下のコーナーの印象は、「受付の人」でした。見た目も考えないと学習相談には見えないので、なにかしら工夫が必要に思います。

(A委員) 私も正確にわかっているわけではないのですが、入って自動ドアの横に誰も座っていないところが生涯学習情報コーナーで、曲がってエレベーターの方に座っていらっしゃる方が受付という認識です。看板があって、横に座っていらっしゃる方がいれば相談員かと思ってしまいますね。

(副会長) あの中がコーナーということでしょうか。

(事務局・センター長) わかりづらいのですが、コーナーの一部に座っていて、アイムの管理業務を担っている方が隣にいらっしゃるので、相談コーナーの職員に思われるのですが、相談コーナーには別にいます。

(A委員) ところがほとんど相談コーナーには人が来ないので、ここに人が来たら奥から人が出てきます。学習の機能が情報コーナーだというから違和感があるのであって、学習館と合わせて7つ窓口があるという書き方にしてもらって、「それぞれのネットワークを充実します」ということであればわかる気がします。

(事務局・管理係長) 多くの方が学習館に直接「いいサークルはないか」と問い合わせをされていて、電話でも問い合わせがありますが、その数については控えていないと思います。管理係にも電話がかかってくるのですが、数はカウントしておらず、実態をつかめていない部分があります。こういった傾向のサークルを探しているのか、ニーズ把握にもつながるので、全体のネットワークを考えつつというのは必要かと思っています。

(F委員) ChatGPT と Copilot に立川市にそういった講座があるか聞いたところ、「生涯学習推進センターや教育委員会の提案を調べろ」や「市民交流代大学」などが出て来て、尋ねる先はAIでいいのではないかと感じてしまいます。団体企画型講座とかで決裁が通っているものであればデータベース化されてホームページに出ていれば十分ではないかと思っています。その中に決裁が通るようなものが載ったとし

ても、例えば自治連とかで行っている行事には該当しているものが多々あって、どのようにそこに盛り込んでいくのかは課題になってくるかと思います。

(A委員) 先ほど会長がおっしゃられていた他でうまくいっている事例について、しくみがいいからうまくいっているのか、その市の学習民度が違うからうまくいっているのか、見せ方がいいのか、成功している要因が立川でマネできることなのかマネできないことなのか、関心があります。

(会 長) コロナ前の少し前の情報になってはしましますが、生涯学習センターみたいなところに相談員さんが常駐していて、相談に乗るだけではなくてサークル体験事業のようなものも企画していました。NPOなどの市民団体に委託するということもありました。駅前の施設を改修するときに学習相談コーナーのようなものを設けて、そこも市民に近い方たちに委託をして、立川市で言うたちかわ市民交流大学のようなところで情報誌も作っていて、団体さんが情報収集と相談みたいなことを市と連携して請け負っているというところは相談件数がそれなりにあったと思います。雑談みたいな内容のものも含めてにはなりますけど。場所にも影響される部分はあると思いますので、アトムも駅から近くていいのですが、1階の角にあるのがいいのか、図書館の中にあつた方がいいのか、5階のフリースペースみたいなところも影響するのかなと思います。

(F委員) 一番いいのは駅前の出張所に空いているスペースがあるので、そこでできたら人が来ると思います。

(会 長) 相談できる場所だとすぐわかることと気軽に相談しやすくなっていることを両立しないといけないといけないのですが、駅周辺にあるといいですね。

(A委員) 職員がコーディネートするという部分はレベル感はともかくとして、できてはいると思うのですが、後者の専門的な知見を活用するというところは立川市ではないですし、そもそもできるのかという風に思っています。お話を聞いていて府中はいいなと思いました。駅前の商業ビルの中の大きなフロアで相談しやすい雰囲気です、マネすることが近道だと思いますが、簡単ではなさそうですね。

(会 長) 立川はこれだけ資源は持っているので、うらやましいと思っている周りの自治体はいくつもあるのかなと思いますので、うまく有効活用していくことを考えていくといいですね。

(C委員) 思い付きになるのですが、学んでいる姿が見える化するような「なにをやっているんだろう。あそこで。」といったことがあるといいと思いました。以前、商業施設内で行われていた料理教室がスケルトンで中が見えるような状態で、料理が好きなので行ってみたいなと思ひまして、そういった導入部分につながるそそられるものがほしいなと思ひました。健康推進課で行っている体操に参加していて年齢制限や回数制限がありまして、その後継続して取り組みたい人たちがグループを立ち上げています。いわゆるリカレントな教育ができていて、次やりたいと相談されている方もいらつしたので、気軽に市の職員に相談できるといいのかなと思います。

(会 長) ありがとうございます。広報は講座を行うときには力を入れますが、実施後の広報について、きらり・たちかわでは工夫されていますが、どのような感じだっ

たら次行ってみようと思うのか活動の成果を写真や動画付きで行うことも可能で  
すからね。

(E 委員) 西砂学習館では、B 委員が講座の後に素晴らしい発表をしてくださっていて、  
「こういうことをしているなら次は参加してみよう」と好循環になっていると思  
います。誰でもできることではないので大変だと思いますが。

(会 長) 話が飛んでしましますが、担い手の話も何度か出てきているかと思いますが、  
ボランティア、作り手や発信してくださる方たちをどのように育てていくのかと  
いうテーマにもつながっていくお話ですね。前回のフリートークの中でも講座や  
事業の数が多くても「継続的に」や「系統的に」学べるものが少なく、その後  
の活動や団体育成につながらないのではないかという議論も出ていました。この  
話は次回も続けるのですが、今日のうちに頭出ししておきたいものがあれば願  
いします。

(B 委員) いくつかあるのですが、学習相談の項目やコーディネーターとしての職員の養  
成の項目もずっとC 項目になっています。学芸大に行って研修を受けて、内部で  
も研修を受けてということはやっているのだろうと思うのですが、B 評価に上が  
らないのはなぜなのかと感じます。

(事務局・センター長) 先ほど話題にも上がりましたが、正規職員が管理業務に追われて  
いるというのがあります。それ以外の部分で会計年度任用職員が講座をコーディ  
ネートしているということがあって、評価でも高いものに値すると思っています。  
さらに正規職員が管理業務以外にもかかわっていくことができるようになれば評  
価が上がっていくかと思います。正規職員が頑張っていないということでないの  
ですが、会計年度任用職員の模範となっていく必要はあるかと思います。

(会 長) ありがとうございます。学習館では会計年度任用職員さんとシルバー人材セン  
ターの方と市民や地運協の委員さんとパートナーシップとしてやっていかなくて  
はいけないので、もう少し循環していけるようなものを考えていかないといけな  
いのかもしれませんね。

(B 委員) この問題は職員だけのせいではないと思っているのですが、職員にも生涯学習  
の方向性であるとか地域学習館の役割や使命は何なのかということを理解する  
ということと、学習館の運営協議会として職員とコラボしながら地域の課題を解決  
していくための手法としての講座であるとか、PDCAを計画の中に入れていか  
ないといけないなと思います。担わないといけないものが増えていて、学社一  
体で学校の関係とかも入ってきているので、職員もいろいろな能力を求められる  
ようになってきて、計画をどう立てて、どのように実施していくのかというところ  
につなげていく意識が必要かと思います。

(会 長) 杉並区で地域の人や団体をつなぐワークショップというか研修みたいなもの  
に関わったのですが、生涯学習施設の職員が企画してその方たちの研修でもある  
のですが、市民の立場で学んだ後、活躍してつなぐ関わりをしている方もいらっ  
しやいますし、図書館の職員さんや政策部の職員さんとかまちづくりに関係あり  
そうな職員さんにも声かけて来ていただいたりしました。職員とリーダーシップを  
取りながらコーディネートしているような市民の方と一緒につなぐことに関する

学び合いをしようという意図で、12月と3月の2回実施しました。杉並区は社会教育士という称号を市の総合政策の方にも入れて、地域の担い手、育成、コーディネーターみたいなものを政策の中にも位置付けているということもあって、この事業があったのですが、職員の力をつけるというのは生涯学習推進センターだけの話ではないかもしれませんね。コーディネート力の育成を合同で行っていくという発想があってもいいかもしれませんね。

(B 委員) そういう話を職員さんと一緒に聞いてみたいですね。生涯学習がどこに行くのかというのが明確でないと、どういう講座にしようとか何のための講座なのかということにつながっていかなくなってしまいます。立川市としては社会教育主事を採用してということにはつながっていないのでしょうか。

(事務局・センター長) 資格要件はございません。

(会 長) 続きは4月に行うのですが、フリートークでもここまでいろいろな観点が出てくるものだなと思いました。まだ出ていないテーマもあると思いますが、少し時間ができたことを逆手にとって、本質的なところで議論をして、実際の計画づくりのところに反映させるような形で持っていったらと思います。

## 5. その他

### (1) 令和5年度第4回立川市議会定例会報告

(会 長) 事務局よりご説明をお願いします。

(事務局・センター長) 12月議会のものになります。教育委員会定例会の後のご報告になりますのでご了承ください。掻い摘んでご説明させていただきますが、会期は11月30日から12月20日まで行われました。一般質問ということで、この中で生涯学習に関するご質問をされた議員さんはお二方いらっしゃいます。2ページの17番の松本あきひろ議員で「滝ノ上会館の保全等について」ということで、滝ノ上会館を改修工事したことについて質問をいただいたものでございます。もう一方が20番の瀬順弘議員で、学習館のトイレの温水シャワーが故障していたというご指摘をいただいたものになります。故障していた1台を除いて先月修理が完了したことをご報告させていただきました。続きまして、4番の議案審議ですが、会館を11館持っておりまして、指定管理者制度を導入しております。指定管理者制度は議会の議案として指定管理者を指定するという決まりになっておりますので、各地区の管理運営委員会に指定管理をお願いするという議案を11館分お認めいただいたというものでございます。続いて、補正予算の部分で4ページ、生涯学習推進センターのところで維持管理に関する部分ですとか柴崎学習館の換気システムが動いていなかったのもので、その修繕の補正予算でございます。学習等供用施設につきましては、非常用電源設備が指摘を受けている部分がございますので、改修を行いました。若葉会館東側通路改修工事は、若葉会館の東側が道路になっておりまして、そこが教育委員会の管理になっております。施設と同じ時期に道路を通したということもあって不具合がございましたので、改修をお認めいただいたものです。14ページに文教委員会の報告がございまして、報告事項が各課からあったのですが、生涯学習推進センターから報告事項はございませんでした。

(会 長) 何かご質問等ございますでしょうか。

(副会長) 柴崎学習館のホールなのですが、Wi-Fi がうまく機能しないということなのですが、予算措置はされているのでしょうか。

(事務局・センター長) 令和6年度予算でエリアを増強することを予定しております、柴崎学習館は2カ所から6カ所に増やして、他の学習館も1カ所から2カ所に増やす予定になってございます。施設の作りが複雑で直進性の障害となる部分では電波が弱くなることがわかっておりますので、令和6年度予算で対応させていただく予定でございます。

(事務局・管理係員) 一点補足させていただきます。柴崎学習館のホールに関しては、前回2カ所Wi-Fiを入れたタイミングでホールにも入れようとしたのですが、LANケーブルの配線で業者の方から「配線することができない」と言われまして、どうやら管が途中で詰まってしまってたどり着けないという話でした。コンクリートの壁に穴をあけてということであれば可能なのですが、そこまでのことを考えていなかったのもので、それで別の部屋に付けたという経緯があります。なので、状況は変わっていないので、今回もホールに入れるのは難しいのではないかと考えています。どうしてもその部屋でということであれば、別の部屋からLANケーブルを長く引っ張って機器を置くなど不格好になりますが、そういった方法があります。もしくはポケットWi-Fiのようなもので対応していくしかないかと思いません。

(A委員) 事務所などからモールで隠しながらであればアクセスポイントを設置できないことはないかもしれないですね。

(事務局・管理係員) 無理ではないと思います。ただし、扉が頑丈な作りになっていて、穴をあけることができなくて、地下の廊下部分からホール内に入れられないということもあって、そういった方法もとることができなかった経緯がございます。

(会 長) 最初の設計段階からなら可能なのでしょうか、後からだといろいろと支障がありますね。悩んだ姿が想像つきますが、ぜひ引き続きご検討ください。

## (2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について

(会 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局・管理係員) 市民公募のお二人は初見かと思いますが、他の皆様にはメールでご案内しているかと思えます。ご出席のご回答をいただいているのが、D委員とA委員です。ご出席することが難しいことが判明している方は、本日委任状を配布させていただきましたので、机の上において帰っていただいても結構ですし、事務局の誰かにお渡しいただいても大丈夫ですので、ご提出をお願いいたします。

(会 長) 都市社連協の定期総会については、出席するか委任状かのどちらかということになります。こちら何人まで出席可能でしたでしょうか。

(事務局・管理係員) 決まりはないので、何人でも大丈夫です。

(会 長) 私も行きます。そのほかに何かございますか(なし)第7回生涯学習推進審議会を閉会といたします。センター長のご挨拶にあった通り、任期としてはここで区切りとなりますが、4月にすぐ会議があります。新しい任期となりますが、同

じ委員の皆さんで開始することになりますので、よろしくお願ひします。  
ありがとうございました。